

(一社) 大阪金属プレス工業会 フィリピン金属プレス事情視察ミッション報告書

日 時：2020年 2月19日 ～ 2月 22日

参加メンバー：(敬称略) 9名

団 長	プレテック株式会社	代表取締役	多田 修
委 員 長	株式会社ハヤシ	代表取締役	林 秀昭
メ ン バ ー	朝田金属工業株式会社	代表取締役	朝田 武志
	カネエム工業株式会社	代表取締役	島田 真輔
	濱田プレス工藝株式会社	代表取締役	濱田 恵
	株式会社ハヤシ	営業副部長	半田 貴久
	朝田金属工業株式会社	管理課課長	坂井 康平
	明星金属工業株式会社		上田 岳裕
	株式会社ニシムラ	取締役	西村 勇紀

まず最初に、今回のフィリピン金属プレス事情視察ミッションの実施におきまして、視察先の選定から交渉・調整～訪問視察に同行する等の多大なるご協力を頂きました株式会社伊藤製作所の伊藤社長様とスタッフの皆様、並びに伊藤製作所フィリピンの金副社長とスタッフの皆様に、心より感謝の意を表させていただきます。

フィリピン基本情報

日本語表記の正式名称はフィリピン共和国。人口は約一億人。

・地理

東南アジアに位置する立憲共和制国家。首都はマニラで、最大の都市はケソン市。7000以上の島を領有する島国であり、フィリピン海を挟んで日本とパラオ、ルソン海峡を挟んで台湾、スールー海を挟んでマレーシア、セレベス海を挟んでインドネシア、南シナ海を挟んで中国およびベトナムと対する。フィリピンの東にはフィリピン海、西には南シナ海、南にはセレベス海が広がる。

・気候

フィリピンの気候は熱帯海洋性で、1年の大半は暑く湿度が高い。気温は21℃から32℃で、1月が最も低く、5月が最も高い。台風の通り道にあたり、7～10月にかけて、年間で平均19回通過する。

・経済

フィリピンの2018年の名目GDPは3310億ドルである。1人当たりでは3104ドルであり、世界133位である。フィリピンの経済は、輸出への依存度の低さ、比較的堅調な消費、1000万人以上の出稼ぎ労働者による海外からフィリピンへの仕送り、急成長するサービス業により、世界経済の混乱の中で比較的安定を保ってきた。2011～2018年は平均して6%以上の経済成長を達成し、2018年には直接投資が過去最高となったものの、憲法や各種法規が、海外資本による直接投資や、土地・公共事業体の所有を制限しているため、地方への海外資本の直接投資は限られている。

日本とフィリピンの位置関係

台湾のほぼ真南

日本から飛行機で約4時間

熱帯海洋性気候で年中温暖

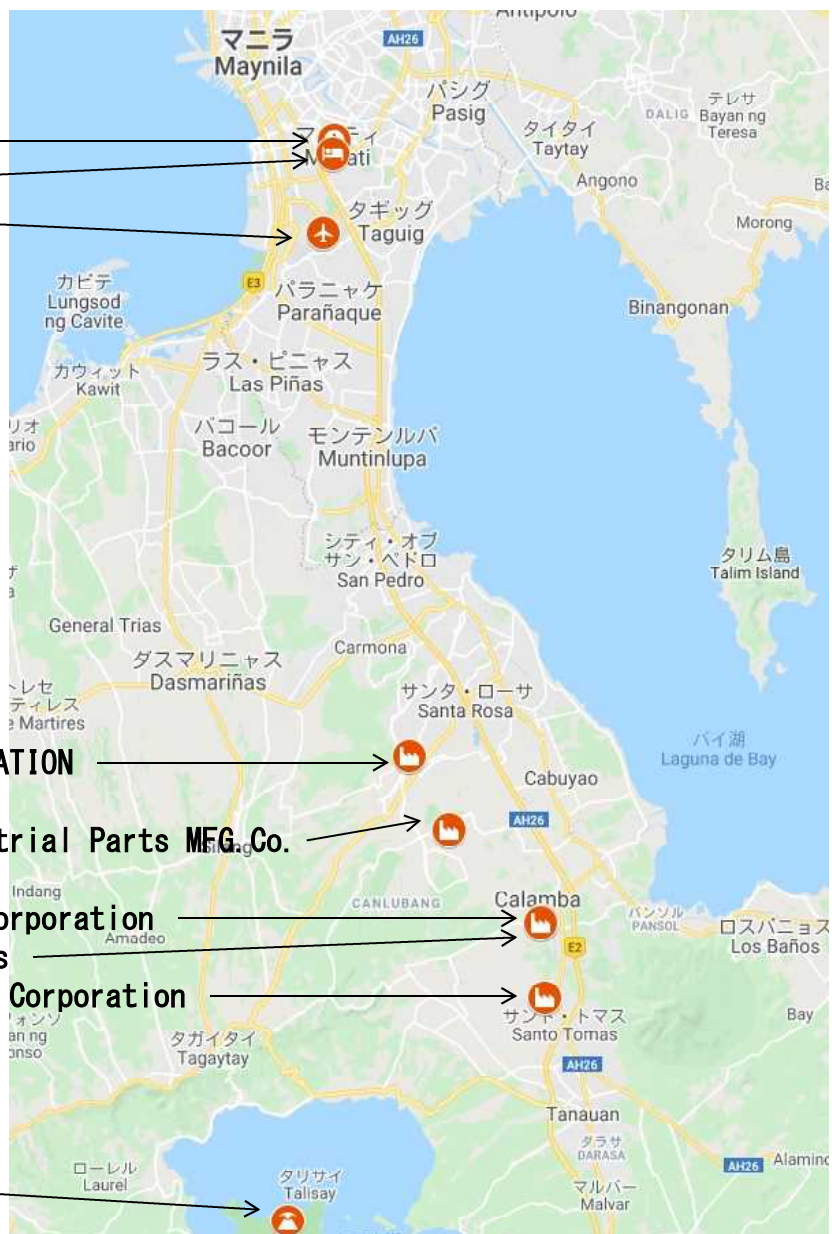
首都はマニラ（ルソン島）

人口は約一億人



訪問先を地図にプロット

JETRO・フィリピン・マニラ事務所
ニューワールド・ホテル・マカティ・マニラ
マニラ・ニコイ・アキノ国際空港



DENSO TEN PHILIPPINES CORPORATION

Roberts Automotive and Industrial Parts MFG. Co.

Ito-Seisakusho Philippines Corporation

Yongshin Precision Interphils

Nissin Precision Philippines Corporation

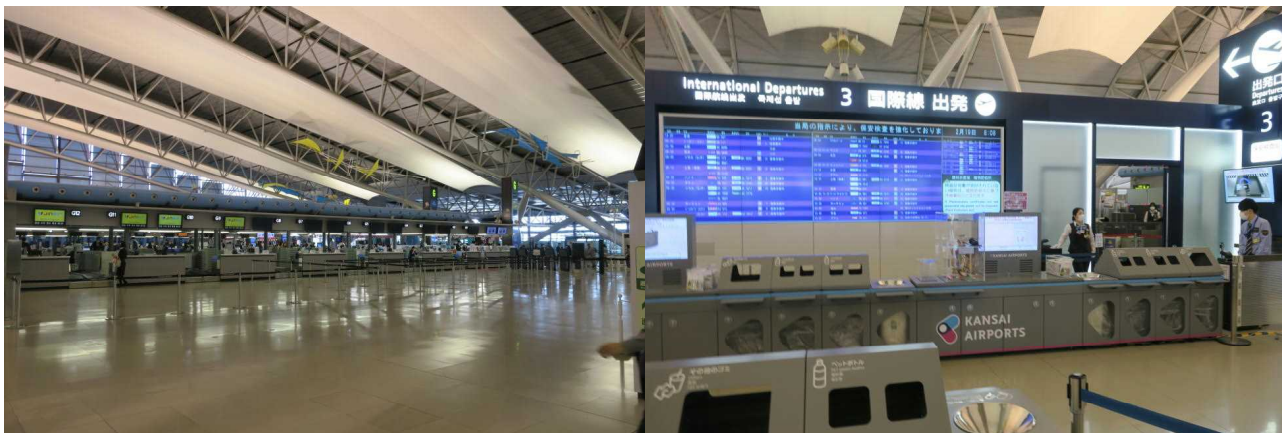
タール火山（現在噴火中）

～時系列経過報告～

2月19日

日本時間

07:55 大阪 関西国際空港にて集合
新型コロナウイルスの影響か？ ターミナルはガラガラ状態でした。



09:55 フィリピン航空PR407便にて、フィリピン・マニラへ向けて出発
飛行時間：4時間15分（関西国際空港→ニノイ・アキノ国際空港）

フィリピン現地時間（時差：日本標準時よりマイナス1時間）

13:10 フィリピン マニラ ニノイ・アキノ国際空港へ到着、空港にて結団式



13:50 チャーター車両にてジェットロ・フィリピン・マニラ事務所へ向けて出発

14:30～16:00 ジェットロ・フィリピン・マニラ事務所 訪問

場所：マカティ市内

面談：石原孝志 所長、坂田和仁 Director

フィリピンの概要説明：

フィリピンの一般企業の法人税は経常利益の30%だが、PEZA（経済特区）は手厚い優遇措置が適用される。材料、機械設備等の輸入関税が免除される上、通信、電力、水道を含む現地購入品の付加価値税を免除され、さらに最長8年間の法人所得税を免除される上、9年目以降も粗利の5%を納付すれば他の税金は免除される。但し、70%以上の輸出と一定額以上の投資の他、業種によって様々な条件があるが、手続きは煩雑ではなく、フィリピンに進出するならば利用すべきである。しかし、あまりにも優遇措置が大きいため、見直しの声が上がっている。内容によっては撤退する企業が出たり、フィリピンへの投資が減速することになる。

自動車の販売台数が2019年で40万台（前年比15%減）と市場は小さい。国内生産は10万台以下、残り30万台は輸入。

ドゥテルテ大統領の政策で治安が劇的に良化した。マニラ首都圏のマカティ市は世界でも有数の安全な町といわれている。大学進学率は30%、大卒の初任給は20000ペソ程度、貧富の差が極端に激しい。マカティ市には大富豪に生まれないと住めない地域がある。日本人居住者はマカティ市に集中していて、朝夕の通勤渋滞はかなり激しい。

人件費の上昇がアジアで一番緩やかである。従業員の定着率が悪く、3年程度で転職していく人が多いため、給料が上がらない。日本企業の黒字率はアジアでNo. 1。

海外居住者が1000万人以上存在し、彼らが海外からフィリピンの家族へ仕送りする送金総額は、年間3兆円に達する。小学校から英語ですべての授業をするため、世界中で働くのに有利である。



- 16:00 ホテルに向けて出発
- 17:00 ニューワールドホテル マカティー に到着～チェックイン
- 18:30 伊藤製作所：伊藤社長、金副社長と韓国料理店にて会食
- 21:00 ホテルのバーラウンジで本日の反省会と翌日の予定確認
両替したフィリピンペソ（共通団費）の仕分け整理



2月20日

- 06:00 朝食
- 07:00 ホテルを出発
- 08:00～09:30 Roberts Automotive and Industrial Parts MFG. Co. 見学

業種形態：金属プレス加工 フィリピンローカル企業

訪問場所：ラグナ州 Canlubang Industrial Estate

面談対応：Mr. Roberto Bobby Guerzon (Business Development Manager)

オブザーバー：伊藤製作所フィリピン 金副社長

設立操業：1992年（オーナーは中国系フィリピン人）

従業員数：500名「RGCグループ（1968年設立）全体では25社3500名」

工場面積：26000㎡

生産品目：自動車部品（ラジエーター、板バネ、マフラー等）

- ・家具屋からスタートして、巾広く展開している。今回は金属加工事業部の視察
 - ・フィリピン国内の年間自動車販売台数は約40万台、国内生産は93000台。多品種小ロットにならざるを得ない。（小物は厳しいかもしれない）
 - ・設備、材料等のほとんどは海外からの購入品（台湾、日本、タイ等東南アジア）
 - ・プレス機は台湾製がメイン、アイダ、コマツも有る。40～600トンで約30台
- メンテナンスサービスも台湾からエンジニアが来る。
フィリピンでアフターサービスを行っているプレス機メーカーが無い。
シンガポールに拠点を置いて、東南アジア全体をカバーしているところが多い。

- ・材料は日本からの輸入が多い。現場にはJ F Eスチールが目立った。
- ・工場内はキレイではないが、整理整頓が来ている。
- ・電気代が日本に比べて1.5～2倍
- ・唯一人件費が安く、伸び率が低い。組合も弱い。
最低賃金が、ラグナ州で375ペソ/日、マニラ首都圏は570ペソ/日
5年程度のオペレーターで13000～15000ペソ/月
スタッフで20000～25000ペソ/月、管理職で50000ペソ/月程度
月2回に分けて支給しないと、すぐに使ってしまう、次の給料日まで保たない。



10:30～12:00 Nissin Precision Philippines Corporation 見学

業種形態：金型製造、金属プレス加工 日系企業現地法人
 訪問場所：バタンガス州 First Philippine Industrial Park
 面談対応：中山陽太 Chief Technical officer (最高技術責任者)
 オブザーバー：伊藤製作所フィリピン 金副社長
 設立操業：2001年（日進精機株式会社 東京本社 は1957年設立）
 従業員数：313名
 工場面積：4034㎡
 生産品目：OA部品、コネクタ類、自動車部品、モーター部品等

- ・東芝のハードディスク部品の製造メインで始まり、自動車部品分野へ進出
- ・金型は自社製造、現地スタッフで設計から製造まで出来る（外観部品は除く）

- ・焼き入れも社内で行っている（良い外注先がない）
- ・プレス機械は45～400トンで11台、工作機械多数、検査機器も充実している。
- ・従業員の定着率を上げるために、地元採用を多くしている。
正社員は、年間3名程度の入れ替わりがある。
- ・設計、加工等である程度の年数を経験して、愛社精神のありそうな者を選んで、日本本社へ研修に送っている。
- ・当初は、最初に日本で研修させていたが、帰国してすぐに「日本で研修」の看板を持って転職する者が多かった。
- ・スタッフで25000ペソ／月程度、管理職で60000ペソ／月程度
単純作業（外観検査）等のワーカーは12000ペソ／月程度



12:00 日進精機フィリピンの中山氏と工業団地内の日本食店で会食

13:30～16:00 DENSO TEN PHILIPPINES CORPORATION 見学

業種形態：株式会社デンソーグループのフィリピン現地法人

訪問場所：ラグナ州 Laguna Techno Park

面談対応：川端信治 社長 他スタッフ15名

設立操業：1990年（2018年 富士通テンからデンソーテンへ組織変更）

資本金：1億3000万ペソ

売上金額：1億8000万USドル／年

従業員数：976名（日本人6名、平均年齢33歳）

生産品目：オーディオ・ビジュアル機器、自動車用電子機器の製造・販売

- ・カーオーディオの大手メーカー、トヨタ自動車とも資本関係が深い。
- ・入構するまでに、体温チェック～ダストコントロールが有り、静電防止靴へ履替え、更に工場見学前には、電子部品に影響が出ないように、静電防止服と安全帽の着用、静電チェック機での確認が実施された。工場内は写真撮影禁止。
- ・社長自ら、かつ各部門のマネージャーが参加してくれた。
改善活動が活発で、全員参加で行っているイメージ。
これはデンソーテンの社風である。
- ・工場内の管理体制は今まで見た会社の中でトップクラス、「見事」の一言、ここまで来るのに一朝一夕では行かなかったとのこと。
- ・従業員のスキル、スペックに対して、教育～認定～更新のスパイラルアップを計画し、その項目も、全部署（人事、総務を含む）に渡って実施している。
- ・職人を無くす方向で改善を進めている。職人技を否定するところから始める。
最終目標は、全ての業務を標準化すること。
- ・各セクションに4人、改善活動計画～推進担当がいる。現場の声を引き上げる。



16:00 ニューワールドホテル マカティー へ向けて出発

18:30 日本料理店にて夕食

21:00 ホテルのバーラウンジで本日の反省会と翌日の予定確認

2月21日

06:30 朝食

07:40 ホテルを出発

08:30～11:00 Ito-Seisakusho Philippines Corporation 見学

業種形態：金型製作販売、金属プレス加工 伊藤製作所(三重県)のフィリピン現地法人

訪問場所：ラグナ州 Carmelray Industrial Park II

面談対応：伊藤社長、金副社長

設立操業：1995年

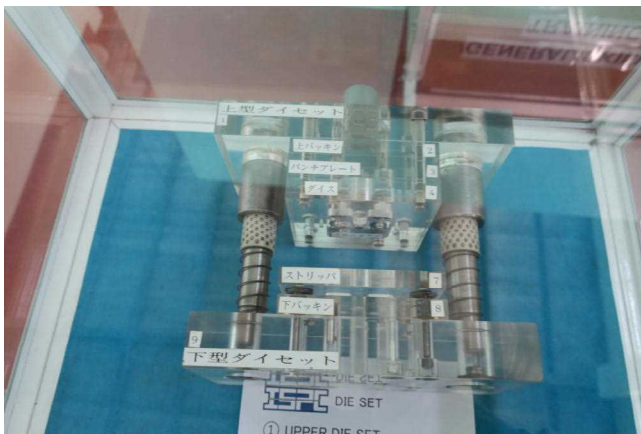
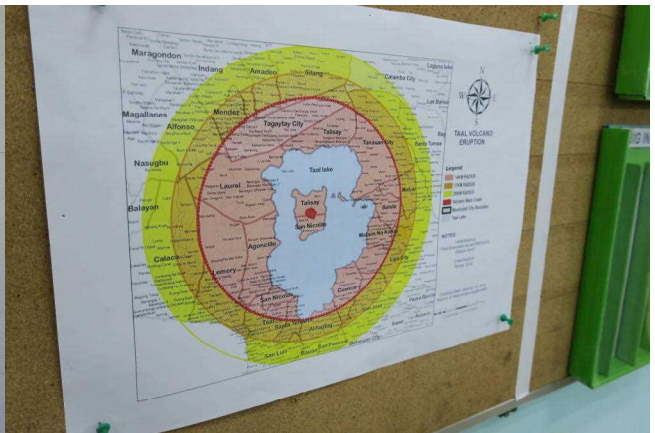
従業員数：120名（正社員46名、契約社員は主に単純検査に従事）

工場面積：5533㎡

生産品目：順送金型、精密プレス部品、自動車部品

- ・ 設計部門は4人、22年勤務の設計担当者は非常に高い設計技術を持っており、日本に頼らなくても設計～製作できる。離職率が少なく技術の蓄積が行えている。
- ・ 家族的な経営を心がけている。褒めるところは褒め、叱るところは叱る。仕事を離れて一緒に食事をし、酒を飲む。従業員を育てたいという思いは伝わる。伝わらない者にはそれ以上何も言わない。やがて辞めていく。
- ・ 技術者が育つ理由：家族的経営だけでは足りない。
→悪い社員まで大事にする必要はない。
目標を持たせること。やる気をもたせること。楽しく育てること。
かつ給料も他社に比べて5%以上は多く渡せるような余力が必要。
- ・ 技術の伝承について
基本的には日本人が技術を継承していくべきだろう。
一方、商業高校から事務職で入った真面目な女性従業員に、CAD、CAM、MC等をやってみるかと思うと、やってみたいという。5年程度で技術を覚えてくれる。
- ・ これがベストといった選択はないが、各社なりに行っていく必要があるだろう。
- ・ 金型のメンテや取扱いが行いやすい構造となっている。
金型売りだけの会社ではなく、自社金型を使用して社内でプレス作業をしているため、プレス工員から改善提案や要求がある。これを無視せずに次期金型に反映している。
- ・ プレス機械は15～300トンで40台
- ・ フィリピン人は仲間意識が強く楽観的、労働組合は弱い。





11:00~12:00 Yong Shin Precision Interphils., Inc. 見学

業種形態：金属プレス加工 韓国系企業フィリピン現地法人

訪問場所：ラグナ州 Carmelray Industrial Park II

面談対応：Mr. Mun Il Yeong

設立操業：2009年

従業員数：120名

工場面積：6600㎡

生産品目：OA部品、パネル、コネクタ、自動車部品

- ・韓国系企業、拠点は韓国、インドネシア、フィリピン
- ・4年前に、東芝の作った工場を居抜きで買い取り移転してきた。
- ・元々はサムソンのハードディスクモーターケースを生産していた。
良い設備がそろっている。大型のプレス機は稼働していなかった。
- ・サムソンのフィリピン撤退で仕事が激減、ハシゴを外された感が否めない。
経営は厳しい。現在は日系メーカーの車部品を製造して延命している。



12:30 伊藤製作所：伊藤社長、金副社長と日本料理店にて会食

14:30～17:00 マニラ市内観光



リサール公園



サンチャゴ要塞



マニラ大聖堂



サンオーガスティン教会

最後に、お土産購入のためにショッピングセンターへ寄ったが、金曜日夕方の交通渋滞のため、自動車が全く進まなくなり、仕方なく徒歩でホテルまで帰った。着替えてから夕食場所へ移動するのも、歩いた方が早いので約30分徒歩で移動した。

19:00 ちゃんこ鍋店で夕食

2月22日 11:00まで自由行動

11:20 ホテルを出発

12:00 マニラ ニノイ・アキノ国際空港へ到着～チェックイン

14:25 フィリピン航空PR408便にて、日本・大阪へ向けて出発
飛行時間：3時間10分（ニノイ・アキノ国際空港→関西国際空港）

日本時間

19:10 日本・大阪関西国際空港へ到着～到着ロビーにて解団式



写真撮影のため、
1名写っていませんが、
全員、無事に帰国しました。

以上